



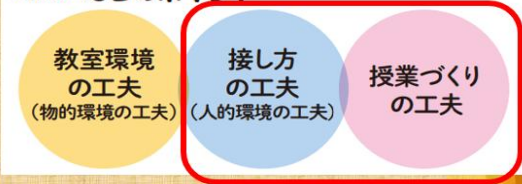
確かな学力の向上をめざして【10月①】

【特別支援教育】ユニバーサルデザインの視点を生かした指導・支援 ～中部地区特別支援教育合同研修会より～

ユニバーサルデザインの視点を生かした指導・支援について、公開授業を通して学ぶ研修会を開催しました。

実践発表では、「授業づくりを支える安心できる居場所づくり」、「児童生徒同士が支え合い・学び合う学級環境づくり」について多くの事例が紹介されました。また、グループ協議では**接し方（人的環境）の工夫**と**授業づくりの工夫**の2つの視点を中心に様々な気づきを共有しました。この2つの視点を通して、児童生徒一人一人の学びを支える指導を考えていきましょう。

すべての児童生徒が授業に参加し、学びやすい授業となるような指導・支援やあたたかい雰囲気ของ学級づくり等のための**3つのポイント**



引用：『子どもたちの「わかる」「できる」をささえるユニバーサルデザインの視点を生かした指導・支援』鳥取県教育委員会 2024

公開授業での授業づくりの工夫

- ・「書けたら立ちましょう」といった具体的な動きのわかる指示を出す。【**明確な指示**】
- ・板書をする際に、どこに何を書くかをあらかじめ児童と共有しておくことで、授業の流れがわかりやすくなる。【**場の構造化**】
- ・「付け加えができていいね」など良いモデルとなる姿を褒める。【**肯定的な言葉**】
- ・授業のねらいや活動、発問などを絞り、学習内容や活動をシンプルにすることで、児童にとって取り組みやすく理解しやすい授業にする。【**焦点化**】
- ・挿絵、色分けなどを効果的に活用することで、視覚的な手掛かりからも理解できるようにする。【**視覚化**】
- ・ペアでの話し合い活動を通して、他の児童の意見を聞いたり自分の意見を説明したりすることで、より深い理解に到達させる。【**共有化**】

安心できる学級では、子ども同士の関係も良くなるから、学び合いが活発になったり、先生の個別的な支援もしやすくなったりするね。



接し方の工夫（講義より）

- ・朝の会や学級掲示など様々な場面を用いて**児童同士のつながり**をつくることで、学び合い・助け合いができる関係をつくるのが大切
- ・特定の子に必要な支援が、**より多くの子どもにも届く支援**になるように工夫することが大切
- ・「一人も取り残さない」という気持ちを大切に、全員が「**参加**」できるよう工夫することが大切
- ・子どもとの**信頼関係を構築**していくことが必要（子どもを信頼する・信頼される教師）



参加者の声（一部抜粋）

- ・ユニバーサルデザインの視点を生かした指導・支援というのは、特別支援学級の児童や**特定の児童だけに必要なものではなく、全ての児童に向けて必要な指導・支援なのだ**と気づくことができた。
- ・問題が解けずに困っている児童に対して、「相談してもよい」という声かけがあったり、問題の解き方を共通理解してから、ペアでどのように解いたか理由を話す場面があったりと、**全員参加する授業のしかけ**をたくさん学ばせていただいた。
- ・自分の居場所がある学級、自分を認めてもらえる学級、先生・クラスメイトとの信頼関係が構築されている学級など、**一人一人が大切にされる学級経営こそが、すべての土台**であることを改めて気づかされた。



Point

児童・生徒同士が支え合うことのできる環境や関係は、教育的ニーズを抱える児童・生徒にとって最大の支援であり、すべての児童生徒のための支援につながります。「あの子にとってよりわかる授業とは?」「あの子にとってより過ごしやすい教室とは?」と問いながら、すべての子どもたちにとって、「わかりやすい授業」、「安心して過ごすことができる教室」となるよう、「教室環境」「接し方」「授業づくり」の工夫をしていきましょう。



確かな学力の向上をめざして【10月②】

対話型鑑賞のひろがり ―浦安小学校「朝鑑賞」参観&体験記

美術作品に対する自分の見方や感じ方、考え方を他者と交流しながら楽しむ対話型鑑賞（朝鑑賞）を通して、子ども達の様々な力を育てようとする取組が全国的にひろがっています。この取組によりコミュニケーション能力をはじめ、非認知能力や学力が向上したこと等が報告されています。

中部地区では、数年前から琴浦町立浦安小学校が朝鑑賞に取り組まれているので、紹介します。

浦安小学校では、朝読書の時間（約15分間）を活用して、月1回のペースで実施しています。子ども達はまず作品を1分間鑑賞した後、「どう見えたか」「何を感じたか」などを伝えます。なお、鑑賞作品は鳥取県立美術館所蔵の絵画の他、地域の方による作品など多岐にわたっています。

◆浦安小の朝鑑賞を参観した指導主事の声 ―こんな子ども達の姿が見られています

子ども達は、作品中に描かれたものや色などを根拠にして、自分が感じたことや考えたことを話していきます。作品を根拠にするので、自然とみんなの前に出て伝えようとする姿【写真（上）】もたくさん見られます。対話が進むにつれて、友達の発言を基にして想像をさらにひろげて話す子や、自分なりのストーリーをつくって話す子など、作品への見方や考え方が深まっていく子ども達の姿が見られるようになります。友達の考えに耳を傾けることで様々な気付きや楽しさが得られるので、たとえ発言しなくとも、子ども達それぞれに学びが深まっていく良さがあることも感じました。



◆朝鑑賞に取り組む浦安小学校の先生の声



Q.「朝鑑賞の魅力や可能性って、どんなところだと思いますか？」

A. 朝鑑賞を継続して行うことで、自分の考えをもつことや、対話を通して考えを深めたり広げたりすることが、自然なこととなりました。また、子どもたちが安心して自分の考えを伝え合える環境づくりにも役立っています。さらに、活動を通して培われた発想力や対話力は、他教科の学習にも生かされています。

◆体験者の声 ①（教師役として体験）



浦安小学校2年生で、中部教育局指導主事が教師役として朝鑑賞を体験させていただきました。



Q. 体験してみて、どんなことを感じましたか？

A. 子ども達は、自然と他者の発言から学び、自分達で学びを創っていく力を備えていることを実感しました。また、子ども達の声をいかに引き出し、つないでいくか、教師の“ファシリテーターとしての力量”を鍛える場としても有効だと思いました。【体験した指導主事】

◆体験者の声 ②（子ども役として体験）

中部版スクラム教育事業の研修会(8.6)の際、希望者を対象に朝鑑賞体験会を行いました。浦安小で取り組まれた朝鑑賞と同じ



流れ・同じ絵で行った大人の対話鑑賞、盛り上がりしました。

A. 他者の考えを受け入れたり、多様な考えを出し合う楽しさを感じ、学級経営にも生かせる実践だと感じました。【体験会参加者】

朝鑑賞の取組は、児童・生徒主体の学びをつくる素地にもなりそうですね！

